

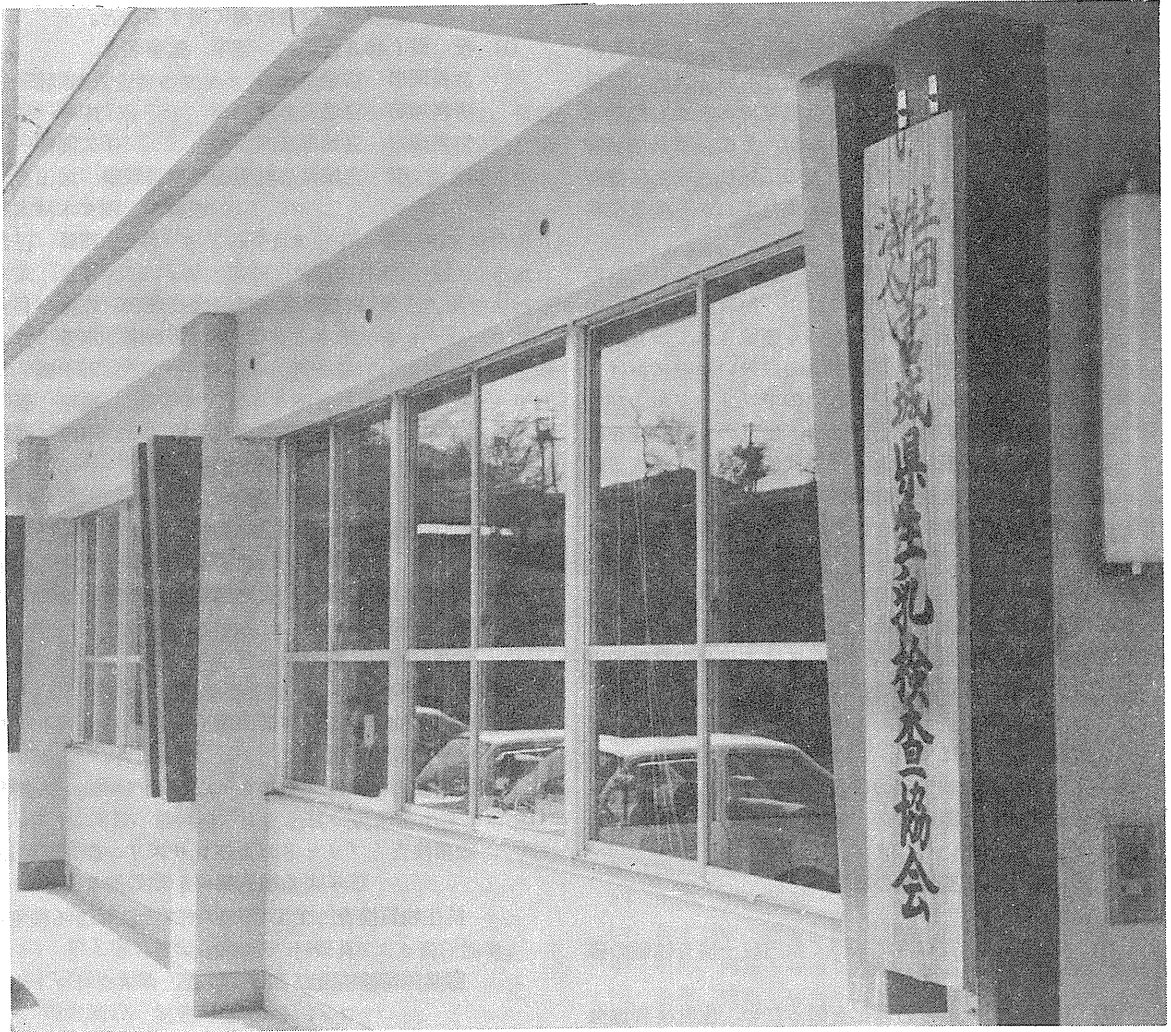
畜産みやぎ

題字
宮城県知事 山本 壯一郎

発行所
仙台市上杉1丁目2番16号
宮城県畜産会
電話 (61-2111)

編集発行人 大石 武一
定価 1部20円

印刷所 K K東北プリント



4月1日より業務開始

も く じ

宮城県生乳検査協会設立.....	2
家畜および鶏の改良増殖計画定まる.....	3
畜産開発公社事業について.....	6
欧州畜産視察.....	7
今後の養鶏のあり方と経営診断上の問題.....	9
在スイス365日の農民と農業.....	10
仙台家畜保健衛生所庁舎落成.....	10
畜産会定時総会開催.....	10

社団法人宮城県生乳検査協会いよいよ業務開始 ＝生乳検査の統一による生乳品質の改善＝

加藤 安良

生乳の県内統一検査体制の確立を図り、生乳の公正な規格取引と品質の改善向上によって生乳飲用化の促進を図り併せて今後の広域流通に対処するため、昨年10月宮城県、生産者、県乳業協会（乳業者）、県生乳販売農協連の三者の出資により永年に亘り懸案でありました宮城県生乳検査協会が設立されましたが、その後器具機械等検査施設も整い取りあえず、新設の広域仙台家畜保健衛生所の検査室を借用していよいよ4月1日から検査業務を開始いたします。

従来、生乳の取引検査は生産者、乳業者がそれぞれの立場において実施しておりましたが、酪農関係者から中立的な検査機関による統一化が強く要望されており、加えて最近における生乳品質は生乳の取扱い過程における細菌数に影響されるものが多いのでブリードおよびレサズリン検査体制の強化と併せて、生乳の一般検査を行うため本県独自の構想のもとに近代的な設備と検査業務の集中化による生乳検査の県内統一化が生産者、乳業者、その他関係者のご理解とご協力によって実現いたしました次第です。

本協会の検査業務は2台の保冷コンテナ車がコース毎に県内の集乳所および工場を巡回しサンプルを収集して行われるもので検査所の初代所長には本協会の常勤理事である大槻昌夫氏を迎え職員10名が検査業務に当たる。

なおこの検査業務を円滑に軌道に乗せるまでには、種々の問題点がありますが、これについては関係者のご意見を充分業務に反映しその改善を図って参る所存でありますので今後とも関係者の一層のご理解とご支援を賜わりますようお願いいたします。

宮城県生乳検査協会の概要

1 基本的方向

- (1) 日本農林物質規格に基づく県内統一検査体制の確立を図る。
- (2) 検査の迅速化と合理化を図るため、生乳検査協会を中心として検査業務の集中管理を行う。
- (3) 生乳の細菌検査に基づき会員による乳質改善奨励制度を推進する。
- (4) 生乳の残留農薬・抗生物質等の検査技術の統一を図る。
- (5) 生乳に関する調査研究を行う。

2 協会の名称

名称 社団法人宮城県生乳検査協会

3 検査協会の機構および役員

会長 < 専務理事 > 理事—監事
 < 常務理事 >

— 総務課 経理, その他の事務に関すること。

所長—業務課 生乳検査に関すること。

指導課 検査指導に関すること。

(1) 役員(46.3月現在, 理事, 監事名)

会長	理事	宮城県知事	山本 壮一郎
専務	理事	宮城県農政部長	中野 博視
常務	理事	宮城県畜産課長	作久間 健一郎
理 事		宮城県生乳販売連会長	堀田 良一
”	”	理事	佐々木 林太郎
”	”	”	斎藤 正吉
”	”	”	佐藤 太二
”		宮城県乳業協会会長	理事 佐藤 利吉
”		”	副会長 理事 本多 賢司
”		”	” 五十嵐 孝
”		”	” 亀尾 義晴
”		学識経験者 東北大学	中西 武雄
			農学部教授
”		学識経験者	大槻 昌夫
監 事		宮城県議会議員	門馬 重義
”		宮城県生販連副会長	理事 米倉 春雄
”		宮城県乳業協会副会長	理事 植野 次郎

(2) 顧問

衆議院議員(環境庁長官) 大石 武一

4 検査施設の概要

(1) 建物 仙台家畜保健衛生所(事務室, 検査室)借用

(2) 検査施設の内容

脂肪検査 ミルクテスター, ゲルベル法, バクチック法

細菌検査 ブリードおよびレサズリン環元試験紙法による検査器材, その他

抗生物質検査 T T C及びデスク法による検査器具器材, その他

農薬残留検査及びP C B検査 ガスクロマトグラフィ, その他

その他検査 牛乳一般分析機器具器材, その他

(3) サンプル輸送車(保冷コンテナ付) 2台

(4) サンプル保冷库 大型1台(検査所用)小型約30台(指定施設に配置)

(5) その他 サンプルびん, サンプル輸送, 滅菌箱, その他

5 昭和47年度検査実施計画

(1) 脂肪検査

(イ) 合乳検査 月3回(合乳累積50検体×3回)×12ヶ月

(ロ) 個乳検査 月3回(個乳抽出7,000検体×3回)×12ヶ月

(2) 細菌検査

(イ) ブリード法 月1回(合乳抽出 300 検体)×12ヶ月

(ロ) レサズリン環元試験紙法 月1回(個乳抽出 7,000 検体)×12ヶ月

(3) 抗生物質検査

TTC検査 月1~2回(合乳抽出 300 検体)×12ヶ月

(4) 残留農薬等検査 随時に検査を実施

(5) 一般委託検査 中小乳業者等の委託検査

(6) 調査研究 生乳に関する調査研究のための検査

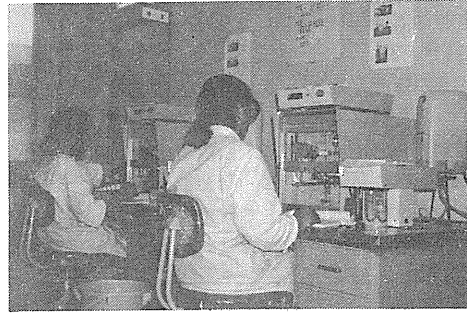
6 サンプルの収去計画

(1) サンプルの収去

生乳検査協会の職員および協会長が委嘱する検査員(生産者団体、乳業会社等の技術員)が行なうものとする。

合乳累積サンプル、県内処理工場のうち1日の処理数量が1,500kg以上の処理工場を対象とするサンプル。

個乳サンプル、生乳検査協会が定めるCS、処理工場においてランダム的に抽出するサンプル。



(2) サンプルの輸送

県生販連に輸送委託して行なうものとし、当該施設をブロック別に区分し、10日に1回の割合で保冷車によるサンプル輸送を行なう。

7 事務所および検査場所

社団法人 宮城県生乳検査協会

宮城県仙台家畜保健衛生所内

住所 仙台市原町小田原安養寺44番地

電話番号 57-0921 57-0922

(宮城県畜産課酪農係)

家畜および鶏の改良増殖計画定まる

早川 薫

畜産物(乳肉卵)の需要

県内の畜産物の需要は飛躍的にふえ、昭和46年対比56年までには、牛乳2.3倍、食肉3.7倍、鶏卵1.6倍の増加が見込まれる。なお基幹道路(国道)東北縦貫自動車

道の整備に伴って、生産された畜産物の消費地である東京および阪神地域の大消費地等への輸送が強化され市場がさらに開拓されるものと考えられる。畜産物の県内消費見通しは次のとおりである。

畜産物の県内消費見通し

年次	県人口(千)	乳		肉(枝肉換算)		卵		摘要
		年間1人当消費量	総消費量	年間1人当消費量	総消費量	年間1人当消費量	総消費量	
昭46	1,830	37.3k	68,270t	6,083k	1,132t	134k	24,522t	
56	2,013	79.3	159,880	20.5	41,267	20.1	40,461	
56/46		212	234	337	370	150	164	

飼い上手 育て上手は…
みのに…で



動物薬品・器具総代理店

みのに薬局仙台営業所

仙台市山田字羽黒堂5の216
TEL 0222(48)3472

こくておいしい大型びん…

森永 ハイクラウン牛乳

宮酪乳業株式会社

仙台市一番町4番31号 TEL(代) 23-9101

1) 畜産物の需給計画

次において 51,100 t を見込んでいる。

(1) 生乳

県内の年間生乳生産量 263,600 t と基準年次(46年)の2.3倍に高める。これに対する需要は飲用向牛乳 147,600t で2.5倍に、県内での加工消費量は、39,500 t を見込んでいる。なお県外出荷については東京および福島地域が主で飲用向原料として出荷、市場の開拓を図る。生乳の県外出荷量は計画最終年

生乳需給計画

年次	乳牛頭数	搾乳牛頭数	供給		供給総数
			県内生産量	集乳量t	
昭46	55,120	28,110	115,250	108,350	115,250
〃56	110,000	56,100	263,600	248,200	263,600
56/46	199	199	228	228	228

年次	需 要				総需要量	摘 要
	飲用向牛乳	自家消費量	加工用向牛乳	県牛出荷量		
昭 46	57,600 t	6,900 t	28,880 t	21,870 t	115,250 t	
〃 56	147,600	15,400	39,500	51,100	263,600	
56/46	256	223	136	234	228	

(2) 食 肉

食肉の生産は基準年次(46年)の20,489 t に対し計画年次には70,601 t となり3.4倍に伸びる。畜種別生産比において豚肉の比重が大巾に増加し、牛肉5%, 豚肉46%, 鶏肉49%生産される。これに対して県内食肉の消費見通しは13,386 t から48,876 t の約3.6倍を見込む。

食肉の需給計画

区分年次	供 給			合 計
	内 訳			
	牛	豚	鶏	
昭46	1,788 t	14,951 t	3,750 t	20,489 t
〃56	3,569	32,486	34,546	70,601
權 46	9	73	18	100%
成 56	5	46	49	100
比 56/46	199	217	921	345

区分年次	需 要											
	県内消費量				県内加工量				県外出荷量			
	牛	豚	鶏	合計	牛	豚	鶏	合計	牛	豚	鶏	合計
昭 46	152 t	12,386 t	825 t	13,386 t	0 t	299 t	0 t	299 t	1,636 t	2,243 t	2,925 t	6,804 t
〃 56	535	27,613	20,728	48,876	0	2,274	0	2,274	3,034	2,599	13,818	19,451
權 46	1	93	6	100	0	100	0	100	24	33	43	100
成 56	1	57	42	100	0	100	0	100	16	13	71	100
比 56/46	352	223	251	365	0	927	0	927	185	116	472	286

(3) 鶏 卵

鶏卵の生産は基準年次(46年)の23,440 t から計画年次には40,229 t となり1.7倍となる。県内消費は25,620 t から42,513 t と1.56倍と県内消費が主となる。

なる。

牧場用柵には
強くて美しくスマートな
東芝製鋼牧柵を!

製造元 東芝製鋼(株)仙台営業所
仙台市一番町二丁目7-5 TEL077053
販売元 塚本商事機械(株)東北出張所
仙台市大町三丁目165 TEL014581
代理店 本山振興株式会社
仙台市昭和町6番10号 TEL346221

畜産公害を追放する

家畜糞尿処理工事

さく井工事

ポンプ工事

水処理工事

設計・施工

株式会社 北辰技術

仙台市鉄砲町18番地
電話 (0222) (93)1420
(93)5651

年次	鶏羽数	卵生産量	県内消費量			県外からの移入量	摘要
			種卵向量	食用向量	計		
46	2,180千羽	23,440 t	1,098 t	24,522 t	25,620 t	2,180 t	
56	8,200	40,229	2,052	40,461	42,518	2,284	

乳用牛

目標

1. 総頭数は110,000頭とする。
2. 乳量の増加と乳質の改善を図る。
3. 飼料の利用性、連産性発育率および強健性の向上

を図るとともに、とくに乳房、乳頭の形状、付着の改良および中軀、後軀の充実による体積の増大を図るとともに体型の斉一化に努める。

4. 能力および体型の数値は次のとおりとする。

年次	能力 305日2回搾乳			分娩間隔	体 尺		備 考
	乳 量	乳 脂 率	無脂固形物		体 高	体 重	
現在	4,100kg	3.4%	8.30%	15ヶ月	132cm	520kg	
目標	4,700	3.4	8.50	14	136	580	

説 明

(1) 牛乳の消費は近年著しく増加したが、今後もこの増加は続くものと考えられる。市乳において45年県民1人当たり消費量37.3kgとなっており、56年には県民1人当たりの消費量を79.0kg程度まで消費の拡大をはかるものとすれば147,600t(2.4倍)が見込まれる。これに伴い関東方面への生乳供給県としての期待が大きくなるので、56年に生乳生産量23%、51,100tを県外に移出し、牛乳市場の拡大が要望されるので、この需要に応ずるため乳用牛の改良増殖が望まれ、乳用牛の目標頭数110,000頭にするるとともに乳牛の能力の改良を推進する。

(2) 乳用牛の能力は漸次向上を示してきているが、今後需要の増大と、乳用牛飼養経済の改善を考慮すればさらに乳量の増加と乳質の改善を図るとともに飼料の利用性がよく連産性に富み、発育率が高く体質が強健で耐用年数の長いものに改良を進める。

(3) 体型については、搾乳の機械化がより一層普及されるものと見込まれる。このため、乳房乳頭の形状、付着および後軀の改善を図るとともに飼養管理の省力化機械化等に対処し、体型の斉一化に努めることが必要であり、体格は県平均で体高136cm、体重580kgと大型化を図るものとする。

肉用牛

目標

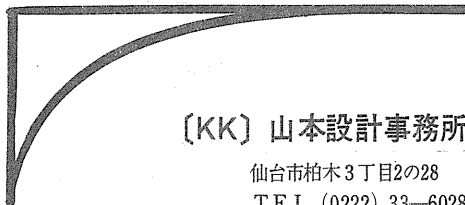
1. 総頭数は100,000頭とする。
2. 体積に富み体格部の均称および資質を向上させ、とくに中軀、後軀の充実を図るとともに成熟率の高いものに改良する。
3. 連産性および産子の斉一性の向上に努めるとともに粗飼料の利用性および強健性放牧性等の向上に努める。

4. 産肉能力については早熟で飼料の利用性に富み肉量が多く肉質のよいものに改良する。
5. 体型および能力についての数値は次のとおりとする。

つづく

(宮城県畜産課技術主幹兼家畜改良係長)

畜産施設設計コンサルタント



〔KK〕山本設計事務所

仙台市柏木3丁目2の28
TEL (0222) 33-6028

今日の活力! 明日の健康!

全酪牛乳



全国酪農業協同組合連合会(全酪連)

畜産開発事業について

公社会員
畜産農家 **の皆様** にお願ひ

宮城県畜産開発公社

当社は県の畜産開発方針並計画により未利用地の開発を目途として、昭和42年11月発足して以来茲に満4周年を迎えることができました。

このことは関係各位のご鞭撻とご協力の賜と厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり公社は草地等の造成改良を中心に委託を受けて施行しております。

実施に当りましては当然のことですが公益法人としての性格を自覚し「迅速、確実、低廉」をモットーとし役職員一同努力と奉仕を旨とし責任ある工事を仕上げております。

お蔭様で業績は年々上昇し昭和46年度における草地の造成は450ha(前年度400ha)をこなせるまでになりました。

常に機械の拡充とオペレーターの技術向上に専念し皆様のご要望に応えられるよう努めております。

なお受託工事の内容ですが草地造成(抜排根、起土、整地、鎮圧、土壌改良資材撒布、播種等の作業)を主体に施行しておりますが、これと関連する牧道、牧柵、飲雑用水、利用施設その他敷地造成等の工事も一括してお引受けいたしております。公社の施行料金は機械歩掛については県から示された歩掛を原則として時間当り単価は実績を基準として定めております。

更に機械施行の設計についてもご要請に応じて現地調査の時点から協力申しあげたいので工事と併せてお気軽にご相談下さい。

おわりにご連絡下さる場合は下記の何れでも結構でございます。おたずね下さい。

- 1) 仙台市本町三丁目 6-16
宮城県畜産開発公社事業部 TEL (0222) 22-8139
23-0944
- 2) 白石市郡山観音崎 91
同 仙南事業所 (02242) 5-2529
- 3) 岩出山町南沢字樋渡 1
同 仙北事業所 (02297) 2-0152

参考までに現有の機械及附属農機具は次表のとおりです。

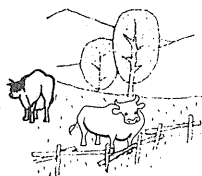
「草地造成は公社へ」

何分のご用命をお待ちしております。

草地造成用機械並農機具一覽表

S 46.12 現在

草 地 造 成 機 械				附 属 農 機 具			
機 種 名	規 格	台 数	摘 要	機 種 名	規 格	台 数	摘 要
レーキトラーザー (乾)	11 t	8 台		ブラッシュブレイカー		6 台	
〃	13	3		ホットムブラウ		10	
〃	14	2		デスクブラウ		5	
〃	18	2		ツースハロー		1	
〃 (湿)	10	1		重デスクハロー		3	
〃	13	2		デスクハロー		14	
〃	14	1		ブロードキャスター		10	
〃	16	1		ライムソア		1	
ショベルトラーザー	11	2		ローラー・ケンブリッチ・ローラ		2, 4	
ホイルトラクター		12		ローターベーター		2	
クローラートラクター		1		ト レ ラ		2	



パスチャー・ポストD型
脱柵の心配のない隔障物

北原電牧(株)代理店

仙台市卸町三丁目1番地21号



吉田産業仙台支店

TEL (0222) (02) 4131

畜産の薬品・器機

何でも揃ふ専門店

仙台市上杉三丁目3-8
東北獣医薬品株式会社
TEL (05) 7338

支店 登米郡迫町佐沼下田中
TEL 迫(2)2278

支店 山形市小白川町4丁目
TEL 山形(3)9909

欧州畜産研修旅行記

鹿又久雄

3 ユーゴスラビア

イギリスの訪門を終えてロンドン飛行場から約2時間、チト大統領を中心とする共産国で知られる親日国、ユーゴスラビアである。ユーゴスラビアという名は「南のスラブ国」という意味で7つの国境に接し、6つの共和国から成り、5つの民族と、4つの言葉が公用語とされ、3つの回教、ギリシャ文字とラテン文字の2つが認められ、1つの共産主義を目指す連邦共和国である。この国の面積は日本の本土と四国を合せた程度で人口は約2000万人、外交は相互内政不干渉と平和共存の立場を堅持し、経済のしくみは、国有企業ではなく国家の統括下におかれていない「人間の顔をした共産主義国」と言われるものである。従業員5人以下の企業、10ha以下の農業は私企業として認められ、それ以外の全ての生産手段は社会有の共有とされている。一方ソ連には対等の姿勢を維持し西ヨーロッパ諸国とは資本のつけいを行なうなど、波瀾に豊む歴史とこれらの国情を抜きにしてこの国を語ることが出来ない。

1 コンビナート農業への発展

ユーゴの行政は自主管理と地労自治にもとづきその権限を大巾に共和国に与えている。私達がこの国を訪れた目的にもこのコンビナート経営における畜産の実体把握にあった訳で特にクロアチヤとセルビア共和国におけるコンビナートの牛(酪農・肉牛)と養豚視察である。この国の農業人口の割合は約45%でその割合は工業と海外出稼などで年々低下している。終戦後は全耕地の約2割を小規模なコルホーズに集団化されたのであるが、生産性が上らず1957年に現在の新農業政策に転じ農業を現況のコンビナート農業へと改革して

いる。即ちコンビナートとは加工食品の原料を農民や協同組合から委託購入するとともに自ら農場、処理加工施設を経営し販売する経済協同体である。したがって私達はこのシステムを理解するまでには2~3日を必要としたがこのコンビナート農業振興の前提には、この国の輸出振興、就労機会の拡大手段、農業の生産性向上等の施策目標がある。一方私企業の農業としては全耕地の86%を占め、農業生産額の71%になっているが1戸当り耕地面積は前述のとおり10haまででその経営規模を生産性は他国に比し、低位にあり私達が視察した地方ではその道筋に数多くの二頭曳きの馬車や牛車とこれに乗る老人の姿など私企業農業は誠に暗いものが感じられた。これに反して残りの14%の耕地がコンビナートの経営で、その規模は何千haと广大であり、この中に耕種部門、畜産経営、飼料工場、乳業工場、食肉加工場など一連の有機的な経営が成立し、その農業生産額は全体の29%にも達し耕地に対する生産は私企業の約21倍となっている。政府とこれら経営体の中間に農業会議があるが、この機関のある責任者は近い将来においてこのコンビナートの農用地が全体の30%に集団化されれば全体の生産額は90%に拡大され、その生産性は私企業の3倍にもなると豪語さえていた。私企業農業では1人1日の労働報酬が日本円にして2万2千円程度であるのに対し、コンビナートに働く農夫は2万5千円支払われており農家の若者は、農業に関してはこのコンビナートで働く傾向になり私企業は老令化して自然にコンビナート農業に集団移行されるのが当然であろうと考えられる。

2 養豚コンビナート(肉豚10万頭)の生産農場など

吾々の最初に訪門した養豚農場はザクレブ市郊外にあるセルボミハイコンビナート農場で全体の面積は、16,000ha、その中に豚14,000頭の繁殖から肉豚出荷までの一貫経営を見ることが出来た。その外に肉用牛2,500頭、精糖工場では40万トン、飼料6万トン、食用油8万トン、食肉工場は豚加工17万トン、牛肉4.5万トン、乳製品工場では1,250klなどいずれも大規模であり、その近代化には驚かされた。視察は養豚、飼料工

こくて おいしく

ビタミン
たっぷり!!



明治乳業

明治ビタ牛乳

= 動物汚物焼却炉 =

野犬・内臓汚物・実験動物
排出汚物・し尿処理汚物・保
健所用汚物等の処理にはモ
ヤスターのSD型再燃式専
焼炉で——

豊和工機株式会社
仙台営業所

〒980 仙台市片平一丁目3-33 TEL 66-4141

場、食肉工場、乳製品工場を見学したが写真をとることも許可されない。この理由は隣接国への情報流出を禁止しての処置と説明していた。養豚農場では大略6部門に区分され、

- (1) 企画管理
- (2) 分娩豚舎 (10棟母豚1,300頭)
- (3) 育成豚舎 (11棟7kgから45kgに育成)
- (4) 肥育豚舎 (22棟)
- (5) 予備豚舎 (4棟)
- (6) 人工授精

などから構成されその他種雄豚、繁殖育成豚などがあつた。この農場は雌の大ヨークにスエーデンランドの雄を交配し、その雌にオランダ種を交配する三元交配のものを肥育している。このように目を見張る広い敷地に約1kmにも立ち並ぶ豚舎とバラタンクには吾々一同びっくりしたものであるが、その施設内容は必ずしも隅々まで整備されたものでなく、最近の日本の施設の方が上等であるが、豚舎は総て暖房、清潔な床面で大規模な経営としてはよくぞやっていると感心させられた。最後に糞尿の処理が吾々の関心でもあつたので再三問い正したのであるがその施設は残念ながら見せてくれなかった。豚舎の床はロストル方式で糞尿は流下されるので尚さら注意をはらつたのであるが、多分自然流出か1部はバキューム車で耕地に還元しているのであつたと思われた。広い耕地にはその必要性もなく、又環境汚染も発生しないうらやましい環境である。病気の予防には特に配慮しているとの事であつたが、その中には下痢豚が多く萎縮性鼻炎と思われる氣に掛る一面もあつた。

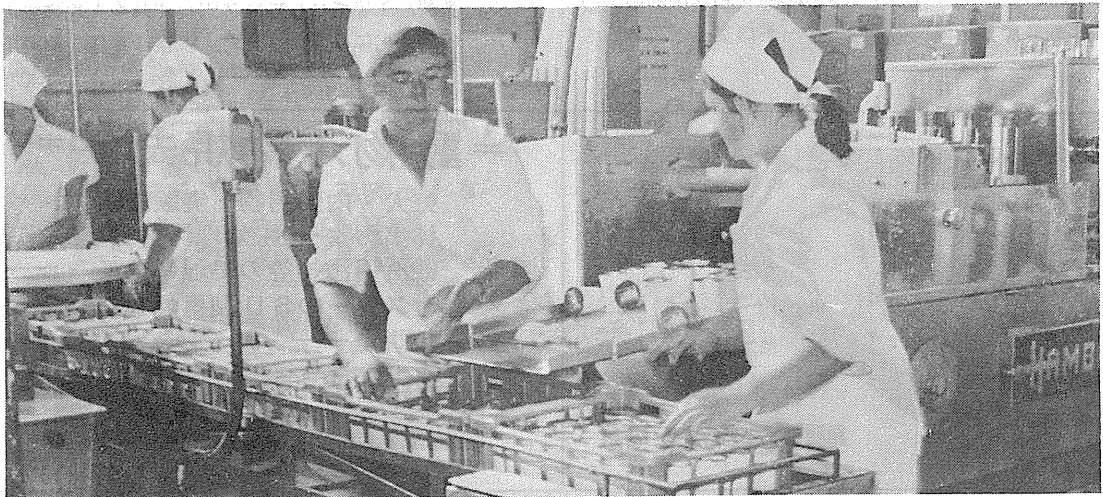
食肉加工コンビナートは近代的施設で設備したと殺解体処理と加工の一貫工場であつて、この国の貿易に占める食肉輸出は7%であるところから、特に輸出向けの製品加工に重点が置かれている。牛と豚の双方を取扱っているが、特に興味があつたのは、輸出国別に処理法を違え、イギリス、アメリカ向けは電鋸で半割し、イタリア、ギリシャ向けは手斧で割っていた。牛

の屠殺は30cm位の鉄製の筒に火薬が入りその先端が突出するものを顔面に当て、脳振とうさせ放血し、次いで動皮はぎ機(スエーデン製)でつり上げられている。ここで試食させられた低温処理のハムは色彩の美しさと美味さは、私が今まで経験した豚肉加工品では最高と思うもので、おそらくはこれからも遭遇することさえないと思う。

3 サグレブ乳業コンビナート工場

この工場では年間1,250klの市乳と約100種の乳製品を加工している。原料乳はその95%を約5万戸の私農業から集乳し、その集乳範囲は半径200kmにおよんでいる。1戸当りの酪農規模は2~20頭で1戸平均2,500ℓである。生産者乳価は国が最低の価格を定め、加工向けの別なく1ℓ当り1.44ディナール(34円50銭)で工場から30km以内は7%、生産出荷量5,000ℓ以上10,000ℓまでは7%のプレミアムが加算支払われている。又その他政府はこのコンビナート乳業工場と選定契約(登録)された農家に対しては生乳1ℓにつき2円40銭の経営改善奨励金を支出している。この国の乳製品は全体的に不足でバター等は輸入され食卓のパンにバターがついていないのもこの国だけである。そのほか工場では育成牛の導入あつせん。融資、飼料の供給、指導員の戸別指導などを行なっている。この工場で特に注目されたのは厳重な品質管理の施設と市乳ポリ容器充てん器(フィンランド製)であつた。そして市乳の需要は日本とは反対に夏より冬に不足する傾向という。詳しくは知らせてくれなかったが、多分酪農家の自家利用が高く自由な販売も、この国では認められているのでこの様な現象となつて表われるものと思われた。この国の乳牛はフリージャンが主体で、その他にデンマーク赤牛、シンメンタル、ジャージー、ブラウン、珍しい牛としてブルーシャーと呼ばれる高地牛が飼養されている。

つづく



今後の養鶏のあり方と 経営診断上の問題

(その4)

水間豊

養鶏経営安定のための検討事項

養鶏の技術・経営上の問題を考えるに際しては、自立型経営である以上、まずなによりも、養鶏が企業的な事業としての性格をもつものであるという認識を強く持つべきことを強調してきた。

これは事業家としての見方に立ち、養鶏の技術のあり方、経営の進め方が、鶏卵及び鶏肉生産費をいくらにするのか、卵価や肉価格の変動に際してどこまで対処できるかを検討しておくということである。

採卵鶏及び肉用鶏経営の技術基礎は、鶏の性能、生理をよく知り、彼等の要求する飼養環境条件をできるだけ満してやり、最高の能力を引き出すことにある。

したがってそれにはよい雛をえらび、育成をよくし、正しい管理を続けることが必要である。以下に養鶏経営を進めるに際して検討しておくべき諸項目を列記する。

(A) 飼養規模・肉用鶏

- (1) 施設の内容、構造上大きさから飼養規模は適当か。
- (2) 労働力および労働配分、特に農業他部門との競合とその対策。
- (3) 鶏群の日令飼養構成から、補充更新計画が適当か
- (4) 出荷日令、体重の点から入雛回数、餌付羽数の検討

(B) 雛の選定

- (1) 抗病性、強健性、ふ化場共同育雛場の衛生対策はどうか。
- (2) 産卵能力の斉一性、初産日令
- (3) 卵重、初産後の卵重の増加速度
- (4) 孵化場育雛場のアフターサービスと責任態勢。
- (5) 発育速度、皮ふの状態、品種銘柄の検討。

(C) 鶏舎施設、飼養環境

- (1) 育雛施設は充分にとってあるか。
- (2) 成鶏舎との距離的分離、管理者の区別。
- (3) 通風換気、舎内の乾燥
- (4) 坪当りの収容羽数が密飼になっていないか。

(D) 飼養管理

1. 育成

- (1) 育成率はどうか
- (2) 生存率、へい死率
- (3) 補充更新計画に誤算がないか
- (4) 発育の不揃、悪癖は
- (5) 育成率、出荷率、季節による発育速度、斉一度はどうか。

2. 成鶏

- (1) 産卵率、産卵日量の計画が達成されているか
 - (2) 産卵日量の年間の月別格差を3%以下にできるか。
 - (3) とう沙率が計画どおりにおこなわれているか
 - (4) へい死鶏の多発、疾病の状況
 - (5) 飼養管理労力、管理方式に無駄はないか
 - (6) 飼料の品質、給与方法に問題はないか
 - (7) 飼料要求率は計画どおりか
 - (8) 飼養管理の急変をしなかったか。
- (E) 施設の利用率
- (1) 鶏舎利用率は基準とどうか
 - (2) 生産性向上のための施設改善
- (F) 衛生対策
- (1) 予防接種(ニューカッスル、鶏痘など)が正しく行なわれているか
 - (2) 薬剤の使用は適正か
 - (3) 予防措置とへい死、とう沙率との関係
 - (4) 鶏舎、器具の洗滌乾燥、消毒が定期的に確実にされているか
 - (5) 病原菌侵入に対する遮断措置、踏込槽の設置との薬剤更新は
 - (6) 鶏ふんの処理
- (G) 飼料等生産資材の購入
- (1) 安価によいものを購入できないか
 - (2) 質と価格が妥当か
- (H) 生産物の品質改善・販売方法
- (1) 卵質及び血卵、肉様塊卵の発生
 - (2) 破卵、汚卵の発生
 - (3) 出荷肉鶏の規格外品の減少対策
 - (4) 鶏卵、肉鶏、屠鶏、鶏ふん等の販売先、取引形態
 - (5) 販売諸経費の節減
- (I) 生産原価・収益性
- (1) 1羽当りの育成費
 - (2) 鶏卵、鶏肉1kg当りの飼料費
 - (3) 所得、労働報酬
 - (4) 資本効率、資本回転率、純利益
 - (5) 鶏卵、肉鶏1kg当りの生産原価
 - (6) 鶏卵、肉鶏1kg当り売上高に対する支払利息
 - (7) 今後の資金調達計画と借入金返済計画は問題ないか。

以上の項目について経営を行なっているもの、今後経営を始めるもの一つ一つ具体的に検討する必要がある。

次に経営の技術的、経営的診断をする上の簡易な目安についてふれてみたい。

つづく

(東北大学農学部育種学教室農学博士)

在スイス365日の農民と農業

(その3) (1968.4 ~ 1969.5)

中新田農業改良普及所

技師 大沢尚文

六、平坦地帯の農家

首府ベルンの近郊に移ったのは10月からであった。この地帯は中世時代の三圃式農法のおもかげを残しながらも着々と近代化の波に乗って集約化された地帯である。農地は10~30ha位の規模で他に山林10~20ha所有している。

1. W. Sagesser 氏の経営概況

- a. 位置 スイス北西部(ベルン近郊)
- b. 農地 11.0ha(内耕地8.0ha永年草地3.0ha)
- c. 山林 9.0ha
- d. 家族 夫婦 子供2人 家事見習生1人
(父母は別宅に隠居生活)
- e. 労働力 1.5人(見習生夏季のみ1人)
- f. 家畜 牛(Simmental種)
 - 成牛 18頭
 - 仔牛(ホホワイトヴェール) 2頭

豚(ランドレース種) 肉豚 110頭/年
農耕馬 1頭

g. 主要作物の作付状況

冬小麦 1.25 ha	馬鈴薯 1.25 ha
夏小麦 1.25 ha	牧草地 3.00
ビール 1.25 ha	永年草地 3.00

h. 主要農機具

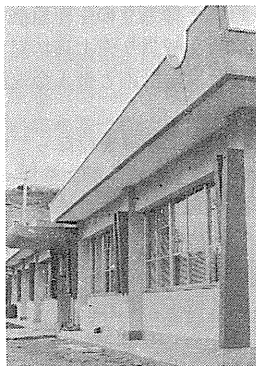
トラクター(35PS)	1台	牧草刈取専用機(8PS)	1台
マニアスプレッター	1台	ミルクカー	1台
ラドワーゲン	1台	尿ポンプ(8PS)	1式
トレーラー(四輪ワゴン)	2台	シードドリル	1台
フォレージャーベスター	1台	フーチライザー	1台
サイドデリレーキ	1台		

その他ビートハーベスター、マニアクレーン車、コンバイン等は農協又は個人有のものを賃借りしている。 つづく

仙台家畜保健衛生所

庁舎落成

農業試験場敷地内に総工費約3,000万円で建設中(CR平屋20室, 建坪546㎡)の仙台家畜保健衛生所庁舎が本年1月落成し, 移転を完了しましたが更に近代的な獣医機械の整備により名実ともに家畜保健衛生の中央センター的機能を果たすこととなりましたのでお知らせします。



場所 仙台市原町小田原安養寺地中45
 電話番号 仙台 0222 57局 0921 ~ 2
 郵便番号 983

畜産会定時総会

開催される

畜産会定時総会開催される

さきに県農協会館中ホールに於いて, 佐久間畜産課長臨席のもとに会員多数が参集し, 第17回定時総会が開催された。47年度は新たに①大規模畜産の特別診断, ②畜産物の消費拡大, ③県総合畜産共進会の開催等総額1,610余万円に及ぶ大型予算が承認され, 席上書面をもって大石会長より下記要旨の挨拶があった。

環境庁長官として国務多忙のため出席出来ないことは残念であるが激動する国際経済情勢に対処するため, 日本の農業も新しい視点に立って, より効率的な近代的構造をもつ産業としての確立が望まれているのはご承知のとおりである。

本会は, その使命とする畜産コンサルタント事業を中軸として畜産経営の安定的発展の為努力を続けて参ったのであるが, 従来事業成果を省りみながら若干の新規事業を盛り込み事業の健全な推進を図るべく尚一層の努力をいたす所存であるので各位の心からなるご協力を願いたい。